

アスピリン経口投与療法

診療科:消化器内科

適応症:下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)

主な内容:Stage III(UICC-TNM 第7版)の下部直腸を除く大腸癌[結腸(C、A、T、D、S)、直腸S状部(RS)、上部直腸(Ra)]の治癒切除患者を対象とし、術後補助療法として低用量アスピリンを併用することが、プラセボに対して、無病生存期間において優れていることを検証する。

治療:術後補助化学療法+プラセボ/アスピリンプラセボ/アスピリン:1日1回1錠(100mg)、連日内服する。内服期間は3年とする。pStage IIIA/IIIBではカペシタビン療法、pStage IIICではオキサリプラチン併用療法(mFOLFOX6療法、またはCAPOX療法)を行うことを原則とする。ただし、患者希望により、pStage IIIA/IIIBに対するオキサリプラチン併用療法(mFOLFOX6療法、またはCAPOX療法)、pStage IIICに対するカペシタビン療法も許容する。